

六郷用水を歩く

散策マップ



次大夫堀公園

埋め立てられていた用水路を掘り起こして小さな水路として復元させ、江戸期の農村を再現している。公園の名は、かつて六郷用水が世田谷方面で次大夫堀と呼ばれていたことに由来している



仙川

小金井市貫井北町付近が水源で、野川と合流して多摩川にそそぐ

岡本民家園

瀬田にあった旧長崎家（江戸時代の百姓代）の主屋や旧浦野家（江戸時代の商家）の土蔵が移築され、古民具類も集められている



岡本八幡神社

応神天皇を祀った、旧岡本村の鎮守の社。秋祭りには、神輿が急な男坂を一気に駆け降りるのがみもの



静嘉堂

三菱財閥を創業した岩崎家の元別邸で、約20万冊の古書と6000点に及ぶ古美術品が収蔵されている。図書を中心に収められた静嘉堂文庫は、英国スタイルの瀟洒な建物

滝下橋緑道

埋め立てられた用水路跡に、緑豊かな散策路が野川まで続いている



泉龍寺前の弁天池

かつては下流の水田の灌漑用水として利用されていたが、現在は都市化によってわき水がとだえ、地下水を汲み上げた環境用水として残されている



田中橋

かつて六郷用水に架かっていた田中橋。用水が埋め立てられた現在は地名だけが残っている



多摩川万葉歌碑

碑面には万葉仮名で「多摩川にさらす手作りさらさらになにぞこの子のここの愛しき」の歌が刻まれている。多摩川に布をさらしている乙女の愛しさを詠ったもの。一度は洪水で流失したが、大正期に再建された



六郷用水取水口跡碑

多摩川の水をせき止めて六郷用水へ送った取水堰の跡。川の地形からもっとも適切なこの場所を取水口にしたところに、先人の英知がしのばれる



水神祠



明治22年、六郷用水の恩恵を受けていた有志たちによって修築された祠で、水神の森とも呼ばれた

ペリー来航記念樹

石井家の庭にひときわ高くそびえ立っている落羽松の木。ペリー来航の年に井伊直弼に献上されたという説がある



永安寺

鎌倉の大蔵谷にあった足利氏開基の永安寺にちなんで、世田谷区大蔵に再建された真言宗寺院



野川浄化施設

河川敷に敷き詰められた礫（小石）の中に水を通過させ、水中の有機物を除去している（礫間接触酸化法）。昭和58年完成



す掘りの六郷用水跡

仙川から岡本民家園にかけて、かつては自然のままの姿に近い、す掘りの用水路が続いていた。現在その面影は、わずかながら仙川寄りに残されている



多摩川五本松

実際には十数本の古い松の木が川辺に立ち並んでいる。映画の撮影によく使われたことでも有名



六郷用水散策コース

- 1 和泉多摩川駅 集合 9:30
- 2 多摩川五本松
- 3 六郷用水取水口跡碑 10:10
- 4 水神祠
- 5 多摩川万葉歌碑
- 6 田中橋
- 7 ペリー来航記念樹
- 8 泉龍寺前の弁天池 11:30
- 9 滝下橋緑道 12:00
- 10 野川
- 11 次大夫堀公園 12:15
- 12 永安寺
- 13 仙川
- 14 す掘りの六郷用水跡
- 15 岡本民家園 14:00
- 16 岡本八幡神社
- 17 静嘉堂 14:30
- 18 野川浄化施設
- 19 兵庫島
- 20 富士観会館 15:00

六郷用水いまむかし
六郷用水は今から約400年前の慶長2（1597）年から、14年の歳月をかけて開削された農業用水です。当時江戸近郊の開発を進めていた徳川家康の命により、用水奉行 小泉次大夫吉次の指揮・監督のもと、地域農民の協力を得て完成されました。そのため、六郷用水は「次大夫堀」とも呼ばれています。
用水の長さは約23キロメートルで、多摩郡世田谷領和泉村（現在の狛江市）で多摩川から取水し、49ヶ村、約15000ヘクタールの水田を潤したといわれています。

開削は川崎側の二ヶ領用水と並行して行われた、長期にわたる難工事でした。そのため農民の労力は過重となり、婦女子も労働に加わったといわれます。
しかし用水が完成すると、地域農民は多大な恩恵を受けることになりました。多摩川両岸には広大な穀倉地帯が実現し、飲み水などの生活用水としても利用できるようになり、人々に豊かな生活をもたらされたのです。
このような歴史ある用水も、戦後の急激な都市化によってその役割を失い、現在ではその面影をわずかに残すのみとなっています。